

(3) 「中領域」別に見た通過率と全国比

大領域	中領域	本県通過率	全国比	全国比				
				平成7年度全国比	平成9年度全国比			
				70	80	90	100	110
1 数 と 式	1-1 文字式の四則計算	64.4	103					
		63.3	101					
	1-2 数量関係の文字式での表現と活用	36.0	95					
		36.4	97					
1-3 不等式の意味とその利用	32.1	92						
	32.1	92						
1-4 連立1次方程式とその利用	35.1	92						
	36.1	94						
2 図 形	2-5 平行線の性質や三角形の合同など	70.1	89					
		68.8	87					
2-6 図形の相似	37.6	85						
	38.7	87						
3 数 量 関 係	3-7 数の表現方法と数の適切な使用	36.1	86					
		36.9	88					
	3-8 1次関数	29.5	81					
31.1		85						
3-9 資料を集め整理し傾向を知ること	29.0	88						
	32.2	98						

① 今回の調査では、「1-1 文字式の四則計算」は全国平均を上回っているが、他のすべての中領域が全国平均を下回っている。

② 前回と比べると、9つの中領域のうち6領域で全国比が上昇している。特に、「3-9 資料を集め整理し傾向を知ること」は、10ポイント上昇している。

(4) 授業改善に向けて

中学校数学は、小学校からの学習内容を発展させ、演繹を中心に論理が体系化していく高等学校数学へ

の橋渡しとなる段階である。中学生は、一般的には論理的・抽象的思考が発達してくる段階にあるが、この発達に加えて到達度の個人差が大きくなっていく時期でもある。中学校においては、生徒一人一人の個人差をとらえ、数学の世界をより具体性のあるものと関連させたり、より発展的に考えさせたりするなど、一人一人の学びに応じた、きめ細かな指導が必要である。

そこで、ここでは中領域の「1次関数」から、全国比が低い小問を例にとり、考察し、その領域に関する指導の要点を述べる。